

図書館通信

最上校図書委員会
No.4 5月17日

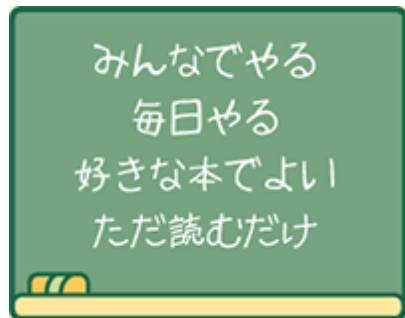


第一回 朝読書が始まります

期間 5月25日(水)～6月11日(土)

時間 8時20分～8時30分(10分間)

朝読書の4原則



- ※朝読書記録カードに、記入しましょう。
- ※雑誌やマンガ以外、読みましょう。
- ※本は前もって準備しておきましょう。



☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆. 新たな一歩を踏み出した

フレッシュなあなたにこそいろいろなジャンルの本を

読んでほしい! ☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆.

若い人たちが本を読まなくなったと言われて、久しくなります。
若い人たちが本を読まなくなったという、年上の人たちの言葉は、若い時にこそ本を読むべきであったという、後悔の言葉でもあります。
あなた方のみずみずしい感性、好奇心、柔軟な思考、そうしたものを豊かに持ちあわせている〈若いとき〉に読書をするには、あとの生き方に必ず大きな実りをもたらします。あなたの読書を日常のなにげない習慣にすれば、思いもかけない幸せな「本との出会い」がきっとやってくるに違いありません

5月図書館企画 朝読書特集

新年度、高校生に読んでほしい本!



『スマホ脳』『最強脳』 アンデシュ・ハンセン著
平均で一日四時間、若者の二割は七時間も使うスマホ。だがスティーブ・ジョブズを筆頭に、IT業界のトップはわが子にデジタル・デバイスを与えないという。なぜか? 睡眠障害、うつ、記憶力や集中力、学力の低下、依存、最新研究が明らかにするのはスマホの便利さに溺れているうちにあなたの脳が確実に蝕まれていく現実だ。教育大国スウェーデンを震撼させ、社会現象となった世界的ベストセラーがついに日本上陸!
コロナ禍で自宅時間が増え、大人も子供もスマホやパソコン、ゲームやSNSに費やす時間が増えていませんか?
欧米では運動不足や睡眠不足、うつになる児童や若者の増加が問題になっています。記憶力や集中力の低下、成績悪化、心の病まで引き起こす、そんな毎日を一変させる方法をハンセン先生が教えます。教育大国スウェーデンの教育現場を変えた、簡単なのに科学的な方法とは!?

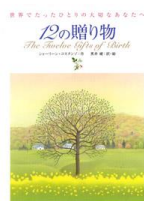


『まろやかな炎』 長田真著作

ボーッと静かに、穏やかな日常を過ごしていたエリマキトカゲのマロ。マロの前にある日、ジェット機のように速く、ハチのように軽やかな炎が現れます。その日からマロの日常は変わっていきました。マロの周囲は熱を帯び、今まで見えなかった場所も目に映るように。そして炎も少しずつ変わっていくのです。マロと炎が最後にたどり着いた世界は?

『パパラレレル』 最果タヒ著

“物語”と“言葉”が弾ける26の小宇宙。最果タヒ、待望の短編集『12の贈り物』 シャーリーン・コスタンゾ著
誕生の瞬間に誰もが平等に授かっている12の贈り物について、やさしい文と美しい絵で語りかける、全米で話題のメッセージブック。



※ぜひ、図書館へ!

新年度、高校生に読んでほしい新刊！



『マザー・マダー』 矢樹純著

息子を溺愛し、学校や近隣でトラブルを繰り返す母親。家から一歩も出ず、姿を見せない息子。最愛の息子は本当に存在しているのか？歪んだ母性が、やがて世間を震撼させるおぞましい事件を引き起こす。「男の子はいくつになっても、お母さんが大好きだからね」

『愚かな薔薇』 恩田陸著

母方の故郷を訪れた奈智。二か月に及ぶキャンプは「虚ろ舟乗り」の適性を見極めるためのものだった？

『真夜中のマリオネット』 知念実希人著

涼介は「僕は畏にかけられたただけなんです」と。無実に思える証拠を見せられた秋穂は、ためらいながらも涼介と真犯人を探すことになるが？涼介は真犯人に操られた哀れな人形（マリオネット）なのか、それとも周囲を操る冷酷な人形遣いなのか。衝撃のクライマックスに、きっとあなたは絶叫する。

『奔流の海』 伊岡瞬著

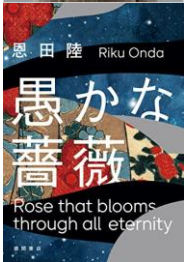
坂井裕二の存在が千遥の大学進学への思いを後押しすることになる。また裕二は過去に何か事情があったらしく、その謎に千遥は惹きつけられていく。裕二の過去には何があったのか？千里見町の20年前の豪雨がもたらしたものは？濁流に押し流される人間の運命が慟哭を呼ぶ、愛と哀しみの青春ミステリー。

『タイムマシンに乗れないぼくたち』 寺地はるな著

孤独と「戦う」わけではなく、また「乗り越える」でもなく、仲良く手を繋いでとまではいかないけれども、孤独とちょうどよい距離を保ちながらともに生きていこうとするような、そういう人びとの物語を書きました。

『春のこわいもの』 川上未映子著

東京で6人の男女が体験する甘美きわまる地獄巡り。これがただの悪夢ならば、目をさませば済むことなのに。



『ミシンと金魚』 永井みみ著

この世に生まれ落ちて、いつの日か死を迎え、この世を去る。誰もが辿るその道を、圧倒的な才能で描き出す号泣必至の物語です。

『夜行堂奇譚』 嗣人著

隻腕の見鬼・千早と、オカルト嫌いな県庁生安課・大野木は、骨董屋「夜行堂」店主によって引き合わされ、多発する怪異の解決に挑む。人の情念や想いが、人ならざるものとなり引き起こす、数々の呪いと悲劇。その様を静かに眺める、夜行堂店主の真の目的とは？

『刑事弁護士』 薬丸岳著

有罪率99.9%の刑事裁判に挑む若き女弁護士は真実に辿り着けるのか？事件の背後に潜むのは、幼児への性的虐待、残忍な誘拐殺人事件、そして息子を亡くした母親の復讐心？気鋭のミステリ作家が挑んだ現代版「罪と罰」。

『花屋さんが言うことには』 山本幸久著

花を求めるお客さんの事情はそれぞれ。誰かを祝う花もあれば、少し切ない花もある。いろいろな想いが詰まったお花を届けているうちに、紀久子は自分の心にもう一度向き合いはじめる。

『夏の体温』 瀬尾まいこ著

夏休み、小学3年生の瑛介は血小板数値の経過観察で1ヶ月以上入院している。退屈な毎日に、どうしたっていらはつる。そんなある日、「俺、田波壮太。3年。チビだけど、9歳」と陽気に挨拶する同学年の男子が病院にやって来た。低身長のための検査入院らしい。遊びの天才でもある壮太と一緒に過ごすのは、とても楽しい。でも2人でいられるのはあと少し。

『香君（上・下）』 上橋菜穂子著

遙か昔、神郷からもたらされたという奇跡の稲。オアレ稲。ウマール人はこの稲をもちいて帝国を作り上げた。この奇跡の稲をもたらし、香りで万象を知るといふ活神、香君の庇護のもと、帝国は発展を続けてきたが、あるとき、オアレ稲に虫害が発生してしまう。時を同じくして、ひとりの少女が帝都にやってきた。人並外れた嗅覚をもつ少女アイシャはオアレ稲に秘められた謎と向き合うことに？

